

みき通信



日本共産党 町議会議員
くぼたみき 活動報告

第39号 2014年3月25日

発行 **がんばれくぼたみきの会**

連絡先 875-7126 (阿部)

悪政への怒りは、フェアプレー精神で！

サッカーJリーグ浦和レッズのサポーターが差別的な横断幕を掲示した問題で、3月23日の浦和のホームゲームを無観客試合とする重い処分が下りました。3人のサポーターがスタンドの入口に掲げた「JAPANESE ONLY」（日本人以外お断り）の横断幕を、クラブ側がすぐに撤去せず試合後まで放置したことに、断固とした姿勢で対応したものです。

Jリーグには多くの外国人選手や監督が活躍し、日本人選手も海外で力を発揮しています。国技と言われる相撲でも、外国人力士が活躍しているというのに、このような差別的行為は残念でなりません。

在日コリアンへの差別をあおるヘイトスピーチ（憎悪表現）が横行したり、各地で「アンネの日記」などの書物が破られる事件がおきたり、どんな理由であれ人として許されないことが、最近目に付くのは何故でしょうか!?。安倍政権は、日本の侵略戦争を肯定し美化する靖国神社に参拝し、従軍慰安婦問題でも旧日本軍の関与を認めようとせず、各国から批判を浴びてきました。「美しい日本」と民族主義をあおり、このような過去の過ちにおきあい反省するという態度が取れない今の国の在り方が、先の見えない不安な生活の中にいる人々の一部に、その不満のはけ口として自らの行為を正当化して、気に入らない人や物に攻撃する行為を許すことになっているのではないかと思います。

さて、4月から消費税が5%から8%に増税されますが、安倍政権の経済政策「アベノミクス」は行きづまり、この消費税増税が個人消費の冷え込みに拍車をかけようとしています。日本経済が長期にわたり悪化しているのは、国民の所得が減り消費が落ち込んでいるためであり、最大の景気対策は賃上げとともに消費税増税を中止することですが、安倍政権は大企業のもつけを増やそうとするばかりです。苦しくなるばかりの生活への怒りの鋭先を生活保護者や他国へぶつけてみても、解決しないばかりが悪政の当事者を喜ばすだけです。

大企業中心の戦争する国へすすむのではなく、国民の命とくらし、平和を守る国にするために、あきらめずに声をあげていきましょう！。

いよいよ中学校給食 始まる!?!

町会議員 くぼた みき

議会で何度も質問してきた「中学校給食」がやっと光が見えてきました。今回の質問への答弁が「中学校給食拡大検討委員会の答申は、やる方向で考える」というものでした。

答申が出たばかりで細部ははっきりしませんが、当初の「やるかやらないか」の検討委員会から、保護者を入れた拡大検討委員会とし「実施」へと大きな一歩を踏み出しました。

私が中学校の時にも毎日お弁当持参でしたが、パン注文だけは出来ました。そのパン注文も一時なくなり、葉山中の保護者から「なぜ南郷中で実施しているパン注文がないのか。お弁当注文は出来ないのか」との声がだされ、現在では、何とか先生方と同じお弁当の注文や、登校前にコンビニで買ってきても良いなど、お弁当を持たせられない時の対応が少しだけ改善されてきました。

なぜ中学校給食を必要としているのか。社会情勢からくる家庭環境の多様化、共働き、母子・父子家庭への負担軽減、そして成長期の子供たちにとって栄養のバランスの良さ、食育の観点などから求められているのです。

全国的には中学校給食を82%以上の自治体を実施している中で、残念なことに実施率の低さで「西の大阪、東の神奈川」と言われています。

その「西の大阪」では、家庭で作る弁当と業者の弁当（デリバリー方式の給食）との選択方式で始めましたが、給食の弁当利用率は10%前後とか、。ご飯は温かいがおかずは冷たい給食を、アンケート調査で50%弱が「おいしくない」と回答しているように、中学校給食をただやれば良いというものではありません。

川崎市では新市長自ら先頭に立ち検討を進める「中学校給食推進会議」を立ち上げ、教育委員会も早期実施に向けた基本方針を出しましたが、葉山町も本気になって取り組むことが必要です。

中学校での自校方式が無理でも、葉山中と葉山小、南郷中と長柄小は距離的にも近く、小学校で調理したものを届けるという「親子方式」も考えられます。災害時に避難所となった学校施設で調理室を利用した炊き出しをした、という事例もあるように、自校方式や親子方式、センター方式など、メリット、デメリットをしっかりと検討し、子ども達の立場で、食育の観点も考慮し、おいしく、質の良い中学校給食が望まれます。